

第3回（仮称）

第3次都心まちづくり計画検討会

議 事 録

日 時：2025年2月27日（木）午後2時開会

場 所：札幌市役所本庁舎 12階 1号・2号会議室

1. 開 会

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

定刻となりましたので、ただいまから第3回（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会を開催いたします。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めます札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室の伊関と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、配付資料を確認いたします。

お手元に配付いたしました資料は、次第、資料1の座席表、資料2の（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会委員名簿、資料3の第3回（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会の資料でございます。また、参考資料として、第2回第一部会資料及び議事録、第3回第一部会資料、第2回第二部会資料及び議事録、第3回第二部会資料があります。

以上をお手元に置いておりますが、不足等はございませんか。

なお、第3回目の両部会の議事録につきましては、現在作成中でありまして、後日、ホームページにて公開をする予定でございますので、ご了承いただきたいと思います。

続きまして、本日の委員の皆様とオブザーバーの皆様の出欠状況をご報告させていただきます。

本日、島口委員と渡邊委員は、ご都合によりご欠席をいただいております。

なお、島口委員におかれましては、札幌大通まちづくり株式会社取締役副社長の齋藤友子様に代理でご出席をいただいております。

また、オブザーバーの草野委員につきましては、ご都合により、本日、急遽ご欠席となりましたので、その旨をお伝えさせていただきます。お配りしております座席表上ではその旨が反映されておきませんので、こちらもご了承いただきたいと思います。

また、札幌市立大学デザイン学部准教授の片山めぐみ委員から10分程度遅参されるというご連絡を頂戴しておりますので、併せてお伝えさせていただきます。

続きまして、事務局の紹介でございます。

事務局を務めます札幌市都心まちづくり推進室でございます。

また、事務局補助として、業務受託者の株式会社ノーザンクロスが同席しております。

なお、報道の皆様におかれましては、この後の写真、映像等の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。

また、本日の検討会につきまして、個人に関する情報など、非公開情報を除きまして、会の次第、出席者の氏名、発言者等を記載しました議事録を作成し、公表いたしますので、ご了承いただきたいと思います。

それでは、村木座長に以降の会議の進行についてお願いしたいと思います。

村木座長、よろしくお願いいたします。

2. 第3回検討会資料説明

○村木座長

皆さん、こんにちは。本日も活発なご議論をどうぞよろしくお願いいたします。それでは、早速、議事に入らせていただきます。

次第に従いまして、事務局から資料のご説明をお願いいたします。

○事務局（杉原推進担当係長）

都心まちづくり推進室の杉原と申します。

私からご説明させていただきます。お手元の配付資料3又は画面をご覧ください。

こちらは、資料の枚数が多いため、説明は簡略に進めさせていただきたいと存じます。なお、委員の皆様は事前にお送りしたのから一部修正がございますので、あらかじめご了承ください。

2ページをご覧ください。本日は三つの論点について、ご意見を頂戴できればと思います。

3ページをご覧ください。本計画検討のスケジュールとなります。

この検討会本体は、前回9月に実施いたしました。その後、各部会の2回目、3回目を行っております。

なお、当初の予定では、今回、重点戦略までをテーマとする予定でしたが、分量の都合もございまして、重点的に進める取組として次回に先送りさせていただきます。

4ページ目をご覧ください。前回の検討会の振り返りです。

計画区域に関しては、下の囲みで示すとおり、計画対象区域は上位計画の範囲を受けてひし形としますが、数値管理を行うための区域として、右の赤い線で囲まれた区域を進捗管理区域として定めることといたします。

5ページをご覧ください。課題に関しても多く意見をいただいたところですので、改めて再整理をいたしました。事前に送付した資料では添付できておらず申し訳ございません。

6ページにて、改めて社会経済状況等の背景から抽出した課題、そこから目標へのひもづきについて整理したものを提示させていただきます。

7ページでは、第一部会、居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会のご報告となります。

取組の方向などは、この後の資料にも出てきますので割愛しますが、9月のこの検討会では目標2を「四季を通じて居心地が良く歩きたくなる都心」とお示ししましたが、部会の議論を通じて「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」に変更いたしました。

さらに市民にも浸透しやすい、分かりやすいフレーズを求める声もありますので、目標1や目標3との並びも考慮しながら、今後も検討してまいりたいと思います。

続いて、8ページでは、第二部会、都心の脱炭素化に向けたエネルギー施策検討部会のご報告となります。こちらでは、エネルギー施策のエリア区分をベースレイヤーとして位置付けることで考えております。

9 ページにおいて、そのエリア区分の設定の考え方を示しております。

なお、各部会の資料については、委員の皆様へ配付しておりますので、詳細はそちらをご確認ください。

10 ページをご覧ください。計画構成案を改めて整理いたしまして、本日、論点としてお示しする箇所を赤枠で囲んでおります。

まずは論点1です。

12 ページをご覧ください。三つの目標については前回お示ししましたが、成果指標の案を付記させていただいております。

なお、具体的取組と直結するような活動指標は、別途、計画策定後に整理する中期アクションプログラムの進捗管理として設定することを考えており、ここでは目標実現への成果を評価するものとして検討しております。

13 ページをご覧ください。目標1は、都市の機能集積を図り、国際競争力を高めていくことを目指しているものです。その成果指標として、経済活力を評価する視点に加え、都心が魅力的だと感じる市民の主観的評価も併せて見ていく方向で検討しております。

14 ページをご覧ください。目標2も、回遊性を評価するとともに、市民満足度も候補として考えております。目標1も目標2も、指標については仮案としており検討中という段階ですので、より良いアイデアなどございましたらご教示いただければと思います。

15 ページをご覧ください。目標3の成果指標は、2050年のCO₂排出量実質ゼロといたします。本計画が20年計画であり、2050年の手前となるため、中間目標を設定しながら着実に進めていくことを想定しております。

16 ページをご覧ください。

ここから計画構成としては第4章となります。

見出しに脱字がございまして申し訳ありませんが、目標の実現に向けた取組の方向となります。ここで、基本方針を一覧にしております。

次のページから42ページまでは、1項目ずつ、基本方針に基づく取組の方向や取組例を記載しておりますが、今日は時間も限られておりますので読み上げは省略させていただき、目標ごとの基本方針設定の考え方のみ抜粋してご説明いたします。

17 ページをご覧ください。

目標1の基本方針として、まず都心は、札幌はもとより北海道全体においても最も中心的な拠点であり、上位計画でも高次の都市機能の集積が進むことを目指すとうたっています。都心にどのような機能をどういった形で誘導し、世界都市にふさわしい市街地を形成していくかを取組の方向として整理していきたいと考えています。また、札幌らしい都市ブランド力を磨き、国内外に発信することが人や投資を呼び込む好循環を生み出すものとし、そこに寄与する幅広い項目をここで拾っていきたいと考えています。

18 ページから26 ページに、基本方針ごとの取組の方向や取組例を提示しております。

少しページが飛んでしまうのですが、27ページをご覧ください。

目標2では、市民や来街者が都心で豊かな時間を過ごせるよう、街路のみならず沿道を含む広い意味でのストリートにおいて、四季を通じた多様な活動を創出することを目指しています。人のためのパブリックスペースの充実を図りながらも、公共交通の乗降や荷さばきなどの沿道へのアクセス環境は確保していくことも重要であると示すとともに、戦略的なマネジメントにより空間を柔軟に効率的に運用することで目標を実現していくことを基本方針として整理しています。

28ページから33ページに、基本方針ごとの取組の方向、取組例を提示しております。

34ページをご覧ください。

こちらは直近の部会でお示ししたのですが、左の図は回遊・滞在機能、右の図は通行機能の視点で、現状の評価をしたものです。今後は、これを踏まえ、目標2の実現に向けた特に回遊・滞在機能を高めるための重点取組路線を位置付けていくべく検討を進めてまいります。

続いて、35ページをご覧ください。

目標3では、まずCO₂排出量の削減手法の考え方について整理し、お示ししています。そのほか、まちづくりとエネルギー施策が連携した取組により安全・安心に都市活動を行える強靱な都心を構築することや建物の特性に応じた効果的な取組の実効性を確保する仕組みを基本方針として設定しております。

36ページ以降、基本方針ごとの取組の方向、取組例を提示しております。

39ページには、9ページでお示したエネルギー施策のエリア区分ごとの取組の考え方を示しております。

40ページ以降も同様です。ここまでの論点1となる目標の実現に向けた取組の方向です。部会で個別に提示してきた部分もありますが、全体を並べてみて不足している視点がないかなど、ご意見をいただければと思います。

続きまして、論点2、都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向についてです。

44ページをご覧ください。このページの内容は、計画構成としては第3章の都心の構造での位置付けとなり、前回の検討会でのご指摘を踏まえ、改めて次の計画においても骨格構造を設定する理由を補強したものとなります。

まちづくりの基軸や拠点として、軸、拠点それぞれで実現したい姿があり、今後も先導的な取組をさらに推進する必要があるということを整理しております。

45ページからは第4章の内容となりまして、各軸と拠点における、これまでの主な取組や成果を振り返り、今後の課題、そこから目指す姿と取組の方向を整理しております。

個別の詳細の説明は割愛させていただきますが、この骨格構造は都心のまちづくりにおいて最もよりどころとなる要素であると考えており、今後どのように強化していくのかを明示することで、計画の中でも重要な位置付けであることを強調する狙いがございます。

今後は、論点1で挙げた目標の実現に向けた取組の方向との相関関係も意識しながら精

査していきたいと考えておりますが、現時点でお示した軸や拠点の目指す姿や取組の方向において、不足している視点などがあればご意見をいただきたいと思います。

最後に、論点３、取組の進め方です。

５４ページをご覧ください。現行の２計画について、計画策定後どのように進行管理を行ってきたか、成果と課題を挙げております。

５５ページをご覧ください。今後の進め方としては、これまでの成果を踏まえて、およそ５年ごとに中期的な実施計画を策定すること、１２ページでもお示したとおり、これまでの都心まちづくり計画では定めていなかった明確な成果指標を設定し、適切な進行管理を強化していくこと、そして、新たに多様な主体が参画する（仮称）都心まちづくり推進委員会を設置して進行管理を行うことにより、実行性を確保していきたいと考えています。

なお、この推進委員会を通じて、計画の進行管理だけではなく、都心の現状を把握することから新たな課題を抽出し、必要な取組をアクションプログラムに反映していくといった発展も視野に入れております。結果として、推進委員会に参画する多様な主体と一体となって、都心まちづくりのマネジメント機能を担う体制を築いていきたいと考えております。

５６ページをご覧ください。具体の取組についても、行政だけでは実現できない官民協働で進めていくべきことが想定されます。今後、Ｅ！まち開発推進制度を活用したまちづくりとエネルギー施策の総合性、一体性の向上を図ることや、エリアマネジメントのさらなる充実、エリアによらない課題解決やテーマに応じた取組への支援などにより、連鎖的に取組が展開していくよう仕掛けていくことも重要であると考えています。駆け足となりましたが、説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

３．意見交換

○村木座長

ここから意見交換になりますが、最後のページに本日ご議論いただきたいことということで論点が三つ示されています。それぞれ３０分程度で議論していこうと思いますので、まず、１点目の目標の実現に向けた取組の方向について皆様からご意見をいただきたいと思います。

ただ、資料だと４４ページまでとかなりのボリュームですから、ここで時間を結構取ってもいいのかもしれないですけども、４４ページまでに書かれている内容について、ご意見があったらぜひ伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○矢野オブザーバー

一言、感想を申し上げます。

今、大学生等の取組をどこでもやっていると思うのですが、私たち石狩振興局としても、その視点から見た中で、２２ページにまちへの愛着の醸成が取組の方法で出てき

まして、こちらは一番重要なところかなと思って注目していました。

若者に多様なまちづくりに参画いただいて、大学生と一緒に授業をやりますと、今、地域の課題解決のために地域でフィールドワークしてもらって、地域を見てもらって、勉強してもらった中で対応策を報告してもらおうというのが本来の事業ですが、その際、地域を勉強してもらうことで地域のファンになってくれまして、その方が地域のPRを進めていくということにつながっていくと実感しているところです。

今回の札幌らしい「都市ブランド力の強化」では、まさに大学生などの若者、特に札幌の都心エリアは若者も多いですし、外からの目ということで言いますと、札幌の都心は大きな会社から転勤される方も多いので、会社と連携しながら、外の意見、転勤してきた人から見た目で札幌を見てもらって、いいところを見つけてもらおうということで進めていけばよくなると思いましたので、こちらの取組の方向はまさに合致していると思っておりま

した。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○愛甲委員

目標1の成果指標について意見があります。

目標1は多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心となっておりますが、その成果指標として仮案となっておりますので、これから検討していただきたいのですが、経済活力と魅力度で、魅力度は市民のアンケートに基づくようになっていますけれども、これだけでいいのかなと思いました。

特に、文化や交流が生まれたかどうかという成果はなかなかはかりづらいところだと思いますけれども、例えば、交流で言えば、この後に取組がいっぱい出てきますけれども、そういった取組がどのぐらい行われたのか。

それから、魅力的だと感じる割合が市民だけでいいのかと思っています。都心は市民だけのものではなくて、外から観光客も訪れますので、もう少し成果指標で交流の部分をはかれるようにしていただくいいと思いました。

○村木座長

今、成果指標についてのご意見でしたが、ほかにご意見がある方はいらっしゃいませんか。

○榎本委員

愛甲委員と関連するコメントですけれども、アウトカムとして純付加価値額や固定資産税や歩行者交通量にならざるを得ないところは十分承知をするのですけれども、このデータの読み方がすごく難しいと思っています。固定資産税の評価額は外部要因にかなり影響を受けと思うので、我々がこれから目標に沿って基本方針で施策を打っていったものが順調だとしても、アウトカムが全然上がらないということが起き得る危惧があります。

あまり数字にこだわってほしくないと思いますけれども、基本方針でうたっている施

策がちゃんと進捗しているのかが評価できるようなフレームワークにしないと、今後の進捗管理の中での議論があまり順調にいかないのではないかとということが懸念されるので、それぞれ基本方針なり施策なりの評価の枠組みをきちんと整理をしてアウトカムを設定したほうがいいと思います。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○東委員

私も基本的な考え方は同じですけれども、できれば既にあるもので集計や算出にあまり時間がかからずに、なおかつ、ヒストリカルな推移が皆さんに説明できて、市民の皆様が分かりやすいものが一番いいと感じます。

どこかで書かれていたのですけれども、他都市との比較ができればなおいいということで、指標としてここに書かれていることは全てもっともだと思うのですけれども、やはり市民の方にご説明して分かりやすいのが一番大事かと感じております。

○村木座長

私も一つお聞きしたいのですけれども、目標1の成果指標ですが、評価をするエリアの設定をどうするか、前から結構気になっているのです。特に経済活力といった際に、例えば、創成川を渡ると地価もすごく大きく下がったりします。だから、それを一括で都心という形でまとめてしまうのがいいのか、そうではないのか。

それから、今のところ、ひし形が比較的ぼやっとした形で描かれているので、この数字を取る際に評価のエリアをどう考えるのか、そのあたりが付加価値額や固定資産税額を取ると気になるところです。そこを後で少しお伺いしたいと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○池ノ上委員

私も評価指標のところでは。

もしかしたら前回もお話ししたかもしれないですが、都市の存在意義を突き詰めると、セレンディピティーと呼ばれる偶然のすてきな出会いではないかと思うので、都市性をどれぐらい維持していくかが都心の一番の役割だと思っています。

それを考えたときに、もちろん、ここで上がっている指標もそこに関連するのであればいいと思うのですが、むしろ、すてきな出会いを創出するために、愛甲委員がおっしゃった交流を生み出す環境がどれぐらいあるのか、あるいは、コミュニティというか、そこで活動する人たちの多様性がどれぐらいあるのか、企業の産業の多様性もあるでしょうし、そういったものを指標として表すことも必要かと思っています。

もしかしたら別件になるかもしれないですが、全体を見渡して、もう少ししっかりと入れてほしいと思っているのは、いわゆるナラティブと呼ばれる地域としての物語かと思っています。6ページで、今回の目標設定のロジックを整理していただいていると思うのですが、背景は、どちらかというと、ニーズであったり、矛盾というか、問題として起こっ

ていることがほとんど挙げられているのですけれども、これまで札幌の都心がどんな役割を果たしてきて、北海道も含めた上での札幌とは何なのかがしっかりと描かれた上で、今後、果たしていく役割というか、目標、ビジョンを描いていくことが大切かと思っています。

そういう意味で言うと、ナラティブをしっかり描かないと、評価指標も含めて、これからどう展開していくことがいいのか、悪いのか、あるいは、本当にそれが進んでいるのか、進んでいないのかが表現しにくいのではないかと思いますので、そのあたりをもう一度検討していただけたらありがたいと思います。

○村木座長

例えば、6ページを見たときに、背景と課題と目標という形でまとめられていますけれども、課題から目標が出るのではなくて、札幌としてどうしたいという方向性がもう少しあるとよいということでしょうか。

○池ノ上委員

最近、ストーリーという言葉で言われたりすると思いますけれども、地域のストーリーなどですね。今後それを誰が語っていくのかというか、語る主体が必要だと思うのですが、背景の部分に来るのか、もう一段前に札幌とはどんなまちなのかみたいなところを描くべきなのか、それは検討していただけたらと思います。

○村木座長

これはこんなに簡単ではないということですね。もう少し複雑なものがあって、そして、目指すものが出てくるべきということですね。

○池ノ上委員

人間味のある都市というか、そういうものですね。

○村木座長

分かりました。ほかにいかがでしょうか。

○高野委員

抽象的な話になります。

6ページの背景に外国人市民・観光客の増加と書いてありますけれども、今、都心ではインバウンドの方が非常に多く目につくわけで、一つとしては、バリアフリーや表示を外国語表記にする、地下鉄に乗りやすくする、手荷物のバゲージをちゃんと預かってあげてまち巡りできるようにするなど、彼らをどうサポートしていくかというユニバーサルデザインとしてのインバウンドを対象とする施策はもちろん重要ですが、もう一つは、ある意味、オーバーツーリズムと言われているような状況で二極化ですね。例えば、札幌にホテルがオープンしました、1泊何十万円のホテルもできましたということで、インバウンドに向けた施設がこれからできていく中で、大学の受験生がホテルが高過ぎて宿を取れないという話もこの前に出ていました。北大生に聞きますと、イチョウの紅葉の時期はインバウンドの方が物すごく訪れるので、外国人の方からお金を取ればいいとみんな言う

のです。ですから、ある意味、途上国化してきているというか、お金持ちのインバウンドVSお金持ちではない日本人という流れが出てきてしまっている面があるのです。

ですから、ニセコが典型的だと思うのですけれども、都心ももうけや商売ということになると、インバウンド、なおかつお金持ちの方々と普通の日本人がどうやって共存していくかという視点もこれから考えていかなければいけないと思います。長く住んでいる人は、雪まつりのときはあまりまちに行かないという話もありますね。ですから、インバウンドの方はどうぞいらしてください、ユニバーサルデザインで頑張ってくださいよということだけではなく新たな方向性も6ページの中で考えた上で政策展開をしていかないと、都心はインバウンドの人たちのものになりはしないかという心配も少しあるので、そういう視点も必要かと思っています。

○村木座長

ほかにございませんか。

○小篠委員

全体的に解像度がそんな高くないという感じがしていて、大まかなことを言っていて、そのまま進めて大丈夫かなという感じがしています。

特に、前も言ったと思うのですけれども、今度は第3次をつくるのですけれども、第2次の年月の中で、例えば、21ページで、まちづくりのゾーン分けを地区ごとにしていますけれども、それぞれの地区でどういう成果が現れてきているのか、あるいは、どういう課題が出てきてしまっているのかをもう少し精緻に分析した上で全体の方向性をつくっていくという建てつけでないと、この次の第3次でどこまで何をやるのか、どういうところに注力して都心をつくっていくのかという話につながっていかないと思います。

かなり全般的な話をしていて、6ページで出てきていることは都心というかなり抽象的なエリアを見ながら話していることが多いので、これだと戦略的な計画のマネジメントという話にはなっていないかと思っています。

しかも、部会二つで動いていて、それぞれで話されていることが合わさったような資料の建てつけになっていますけれども、もう少し、それぞれで出てきている課題や、今、何が課題なのか、逆に、どういうことが成果だったと言えるのかという話をここのテーブルで出して、それを議論したほうがいいのではないかと思います。そうなっているのかもしれないのだけれども、それが見えてこないところがあるので、そのところがすごく気になっています。

○村木座長

今、小篠委員からご指摘のあったところは、21ページの細かいゾーンで考えた際に、各ゾーンの抱えている課題や目標もみんな違って、先ほど高野委員がおっしゃった都心のインバウンドの話もこの全域に対してではないとなると、課題、目標をもう少し細かく認識して、ゾーンごとにどのようなことを目指していくのかをしっかりとっていく必要があると。そして、二つの部会でそれぞれが何を議論してきて、どんな成果があって、何が

課題なのかも明確に示したほうがいいということですね。そうでないと、次が見えてこないということですね。

結構ご意見が出ていますけれども、今までのところで事務局からご返答されることはありますか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

評価を中心に多様なご意見いただきまして、誠にありがとうございます。

改めまして、今回、計画を検討する上で指標を設定するという目標を掲げながら、これまで検討を進めてきておりまして、一旦、中間報告的な形で今回お示しさせていただきましたが、目標1という大きなレベル感に対しての指標設定を一つの指標で設定することが非常に難しいという側面と、また、その数値をどのように取っていくべきか、しかも、費用や手間の面でのコストをあまりかけない形でどのように指標を見ていながらモニタリングをして次の施策に反映させていくのか、我々も非常に悩みながら、今回、中間案としてお出ししました。

交流の面や、満足度のお話や、指標の案を様々頂戴しました。それらについてどのような形で指標を取っていくのかということも併せて検討していきたいと思っております。

また、村木座長から、指標を設定する上で、その指標をどう測っていくのかというエリアの取り方についてのご質問がございました。

今、エリアのひし形をぼんやりと取っておりますので、エネルギーの部会で全体のエリア区分という形で街区ごとに区域分けをした進捗管理区域も示させていただいておりますので、そういったところをエリアの設定の大枠として指標を取っていきたいと考えております。

そのときに、今、赤線で見えている全体について、一つだけ指標を取るということではなかなか見えてこないものが多くあると思いますので、この中で少しエリアを分けた形で数字を取りながら、指標の動きを見ていながら施策の検討等に反映させていければと考えているところです。

○村木座長

そうすると、エリアを分けるということ自体、各エリアの課題や目標が違うということと連動すると思うので、そこを少し丁寧に議論したほうがいいのかもしれないですね。ほかにご意見はいかがでしょうか。

○池田委員

6ページのところで、先ほどあった物語、ストーリーのところが非常に気になっています。

前回もそうだったのですが、この資料は札幌でなくてもいいのかなと思うのです。東京でも仙台でも同じで、札幌のまちづくりとしてはどういうことが大事なのかと考えました。

そこで、例えば、札幌で生活している人にとって、北海道の四季を大切にする、あるいは、それを生かすまちに私たちは住んでいますというストーリーができたときに、秋は収

穫の秋ですから、今で言えばオータムフェスト、ガストロノミーでもいいのですが、食の文化をどう広めていくか、それを皆さんにどう享受していただけるか。冬だと、雪まつりもありますが、生活の中では電気代やガス代というエネルギーの支払いが非常に多いです。そういう足元を見たときに、それを克服するような施策を含めて市民に還元できるような制度など、私たちが享受する四季をどう都市の中に反映させていくかによって、世界的にも魅力のあるまちになっていくのではないかと思います。

ですから、これと並行して、物語、ストーリーに触れてみんなで議論するような場があったらいいなと感じております。

○村木座長

札幌ならではの背景や課題をもう少し明確化するその必要性ですね。ほかにいかがでしょうか。

○内川委員

今回、取組や方針を設定していただいているのですが、課題を見たときに、現在進行形の課題と、もう手を打たないと未来の都心のまちづくり的に対処できないもの、これをやっていくことによって札幌の魅力アップにつながるものみたいに課題の層を少し分けられたらいいのではないかと思います。

それらの取組を進めることで目標をかなえていけるという視点があるといいなと思ったので、少し時間軸をもって検討の行き来をしたほうがいいと思いました。

それから、私は二つの部会とこの検討会に参加しているのですが、それぞれにエリアの設定やゾーン分けあって、部会個々で考えているときには分かるけれども、これを一つの計画にしたときに、誰のためにつくっている計画なのかがだんだん見えにくくなってきていると思いました。

これを見ていると、どのエリアも取組をしなければいけないというように感じるのですが、例えば、取組と主体の星取表か、取組とエリアの星取表か、そういったものをつくることで、どこのエリアではこの取組を重点的に進めていくのかが見えてきて、個々のエリアで課題をもう少し精緻に見たほうがいいということも検討できるのではないかと思います。

○村木座長

かなり具体的に、場所と、やらなければいけないことと、時間軸をもう少し考えた内容にしていくべきだというご意見だと思います。ほかにないでしょうか。

○東委員

今までの委員の皆さんからのご発言の内容はよく理解できる部分があるのですが、この資料を頂戴して、目標１、目標２、目標３を拝見したときに、今後、札幌が１０年後、２０年後に迎える課題を考えると、目標１と目標３はこのとおりかなと感じましたが、目標２だけは、必要条件ではあるけれども、十分条件としては足りないかなと感じました。

委員から伺った中で、例えば、都心だけのまちづくりではないといいますか、都心に来

る色々な人が関与したり、利便性が担保されていなければいけないといったご趣旨の発言だったり、ストーリーということで、皆さんが共感したり納得したりできる、あるいは、札幌らしさというか、アイデンティティーが感じられる部分が必要だということについては、全くそのとおりだと思います。

目標２について言うと、私は、今後１０年、２０年後の課題は、人手不足により、都心のまちづくりを支える人がどんどん減っていくということだと思いますので、どうやって人に定着していただくか、あるいは、都心の周辺や近郊、郊外から人に来ていただきやすい交通環境やアクセシビリティをどう確保していくかということがかなり重要な問題になっていくのではないかと、昨今のバス便の急速な減少を拝見していると感じるのです。ですから、目標２では、都心の歩きやすさや都心への来やすさというものが必要なのかなと感じております。

それから、目標自体には共感している部分が多いですが、もう少し踏み込んで発言させていただくと、１６ページの目標１の中の基本方針１が今回のまちづくりの一丁目一番地的なところだと感じています。これ以降に具体的なことが色々書かれているのですけれども、ここの目標に書かれているような新たな産業や文化や交流の一番必要な条件を整理して、アイデンティティーをしっかりとブラッシュアップしてからブランディングやプロモーションをお考えになるのがいいと思っています。

新たな産業のためには人材や教育や資金が必要ですし、文化というのは、札幌の歴史や遺産、食、自然環境もそうですが、スポーツ、エンターテインメントなど、素晴らしいレガシーを札幌自身は持っていますから、色々な要素があるだろうと思います。

私は、札幌の強みは交流ではないかと思っています。国内のどこにもない魅力ある地域アイデンティティーとそれを支える人がいて、その交流によってインバウンドの受入れができていと思うので、そこをどうやって大切にしていくかを考えていく必要があると思っています。あとは、また別の場でお話しさせていただきます。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○三浦委員

前回の委員会でもコメントをさせていただいて、一部反映していただいていると思うのがGXの話です。昨年の特区の指定を受けて、これからまさにビジョンをつくっていこうというところですから、そういう点も意識した計画にするべきでは、というコメントをさせていただきました。

今、東委員からもお話がありました１６ページを拝見すると、若干物足りないなと感じるところもありまして、基本方針１の１－１という各論になってしまうのですが、ビジネス環境の形成が、先ほど委員の皆様からお話がありました札幌らしさが見えてこなくて、単に企業を集めただけという形になってしまっているのも、もう一步踏み込んだ背景、まさに北海道が再生可能エネルギーの供給基地であるということも含めたビジネス形成の

チャンスを持っているというところを意識した書き込みを行うべきと考えます。これは、ビジネスに限らず、基本目標3にもつながる話だと思いますけれども、そういう再エネ由来の社会が形成できるというベースを生かした札幌らしいまちづくりの背景といいたほうがいいかな、先ほどの池ノ上委員のお言葉を借りれば、ストーリーという部分を入れていくことが必要だと感じました。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○井上委員

1から3の基本目標がある中で、ふだん東京で働いている者からしますと、目標1は、どこの大都市でも抱えている課題で、札幌でも間違いなく考えられるべき課題ですけれども、100万人規模の都市が考えるべき課題です。個別の解決策には多少の違いがあると思うのですけれども、課題としては共通のものかなと思います。

目標2は、まさに最近のまちづくりにおいて必要とされる、はやりというのは言い過ぎかもしれませんが、ウォーカブルと言われるような、特にコロナ前後から都市での過ごし方が受け入れられやすいという中での課題かと思っています。

ただ、その中で、札幌、北海道は、冬の気候の特色や、夏も日本の中では比較的歩きやすいところですので、まちの歩き方というのはほかの都市とは違うことが言えるかもしれないと思います。

そのときに、今回の都心まちづくりで対象としているひし形の部分は、エリアとしてはかなり広くて、全てが同じように発展するわけではないので、にぎやかに暮らせる、過ごせる空間と静かに落ち着いて暮らせる空間が混じっているわけです。ですから、まち巡りの仕方にうまく強弱をつけるのかなと思います。

今日の説明を聞いていると、札幌の特徴が一番出やすいのは目標3かと思っています。先ほど三浦委員もおっしゃっていましたが、気候変動や温暖化が言われる中で、日本のほかの都市はもう暑過ぎるので、札幌もこれから暑くなると思うけれども、まだまだこれから手を打てるところかと思っています。今、札幌が意思表示をして、まちづくりの中でこれを実現していくということは非常に価値があるのではないかと思います。

日本の100万人都市の中でこれが今からできるのは札幌だけだと思いますし、横を見ても、海外の同じような緯度に面している都市でもやっていますけれども、札幌のような人口の多いまちでこれを実現しようとしているところはそんなにないという感じがします。なので、そこに特色を見いだすということはあると思います。

そうすると、特色を3-2の基本構造の中で、国家構想の中の特にこれから変わりそうなところで重点的にどう実現していくか、あるいは、エネルギーであれば、それを実際に体現できるように、この大きな目標があるのだから、もっとやりやすく、補助なのか、育成なのかは分からないですけれども、そういったところを重視していきましょうという政策につながっていくのかなと。そのようにつなげて論じられるようになるといいのではない

いかと思いました。

○村木座長

各目標の位置付け、意味合い、札幌ならではのもう少し考えていかなければいけないと思ったところですが、ほかにいかがでしょうか。

○齋藤委員（代理）

私は初めて参加するのですが、１３ページの指針によつての目標はどうだったのかという指標ですけれども、固定資産税はどうなのかなと思いました。

市民が魅力を感じるときに、立派なビルが建つたな、固定資産税をいっぱい払ってくれているのだな、そこに魅力を感じるかということ、それは全くなくて、楽しい店がいっぱい並んでいる、買い物しやすいだったり、トイレがきれいだなという目線だけでも、とてもにぎやかで華やかなまちを希望されていると思います。

今、全国にすごく立派なビルがどんどん建つてはいるのですが、店舗区画が空室で、寂しいビルになっているところがたくさんあります。銀座でもそうですし、特に商業施設も塩漬けになって開発が止まっているところもたくさんありますが、これから札幌も間違いなくそうなる私は危惧しています。中には、高額での売買を目的とする所有者が、空室率が高いまま転売を計画しているという話も聞きます。売買価格の高騰により、確かに固定資産税が高くはなりますが、街の賑わいとは無関係となっています。

では、どうすればいいかというと、固定資産税を下げていただいて、みんなが出店しやすいように、デベロッパーも痛まないようにというのも一つかと思うのですが、大手デベロッパーが出店するときの指標として一番大事にしているのは、やはり若い人がどのくらいいるかということと、これからの１０年、２０年で増えるか減るかをすごくシビアに見ています。

最近、特に出店が目覚ましいのは那覇と福岡です。話を聞くと、これから若い人が増えるという要素がたくさんあるのです。ですから、天神又は博多の駅にはあのよう商業施設がどんどん建っているのだと感じます。

我々が目指さなければいけないのは、札幌の大学に通った女性又は男性が道外に出ていく数をいかに減らすかが一番の指標になると思います。その結果、賃料を下げて、イノベーションがある企業を誘致して、今はＩＴの発達によって遠隔でも仕事ができる環境にありますので、札幌広福の中でも爽やかな札幌をいかに選んでくれるかという結果が、就業している人も就業していない人も、若い人たちの人数というのが一番の指標ではないかと思っています。

○村木座長

ほかにございませんか。

○片山委員

目標１、目標２、目標３の関連性を考えていました。

私はまちづくりや建築をずっとやってきましたが、都市計画やまちづくりの議論の中で、

再生可能エネルギーがここまで大きな素材として一緒に考えなければいけないというのはほとんど初めてで、専門家ではないので想像できないなと思っていました。

最近見学した面白い施設があったのですが、旭川の北の森づくり専門学院というところ です。間伐材を使った木材チップのボイラーがあって、その熱で学校内に学生の居場所な どをつくっているのですが、そのボイラーの巨大な煙突を建物の前面に持ってきて、それ をランドマークにしているのですね。そこでは、このまちの中で育った間伐材をこんなふう に社会のために使っていて、そこで子どもが育って、次世代の若者が輩出されていると いうことを建物で可視化しているのです。

このアイディアを参考にすると、目標1も、目標2も、北海道ならではのエネルギーの 目標を達成したからこそ、人もいるし、若い人も市民活動をしているし、冬でも暖かくま ち巡りを楽しめているので、目標3が土台になって実現されているというストーリーを建 物で見える化できると考えます。みんながプライドを持てて、外から来た人もここは違ふ ぞと思い、日本の中でも何か特別なことをして、寒いし雪も多いけれども、新しい一步を 踏み出しているということができればいいなと思っています。

また、私の大学も一つ貢献しているのですけれども、札幌市ではふるさと納税で学生の 活動に寄附できるようになったのです。そのため、北海道の若い人たちが、唯一、札幌に 集結してくるということが加速度的になっているところで、学生の日常の市民活動が見え る化されて、あそこへ行ったら若い人たちがいつも集まって活動していると。晴れの舞台 の発表会のときだけ都心で何かやっているというのではなくて、常に活動が露出されてい る、そういうことが再生可能エネルギーの拠点の足元でいつも展開されているというよう な、分かりやすい目標1、目標2、目標3が合わさった場所がデザインできるというので はないかという夢を見えています。

○村木座長

札幌の都心も廃材を活用した熱供給をやっているのですけれども、みんな知らないこと もあるので、目標1、目標2、目標3の横のつながりですね。縦割りではなくて、どうつ ながっているかということも検討しなければいけないと思いました。ほかに何かご意見は ありませんか。

○後藤委員

UR都市機構の後藤です。

大量の資料で最初はびっくりしたのですが、説明が分かりやすく良かったです。

少し話が戻りますが、物語性や課題への対応よりは目指すところを先にというお話は、 私どもはほかの地域でのまちづくりに地権者として参加することが多くて、同じ発想をす るのですが、そのまちの正常進化とは何なのかということによく直面します。

典型的なのは下町の飲み屋街みたいな歴史的にそうである場所で、昨今は、住んでおら れる方から治安がよろしくない、こういうまちはよろしくないという意見も一方ではある が、果たしてこの先に何を目指すべきなのかというときに、歴史的な文脈というか、慣性

の法則でいくと繁華街のままでいいのではないかという人たちと、そうではない、これから変わるのだという人たちのどちらが正解なのかを探す方法論がないように思います。

結果的には、よくやる手法としては、地域に昔から住んでおられる方や居住者の方、有権者の方など、満遍なく色々な人のご意見を聞いて何となく方向性を見いだすということしかないと思っております。先ほど来、お話を聞いていて、まさに札幌都心も同じ悩みというか、課題を指摘されているのだろうと思います。

テクニカルには、パブリックコメントを来年度やられるということがございますので、パブコメの中でできるだけ多くの方の意見を拾い、今後、プログラムをまとめていく中で物語性をいかに埋め込んでいくかをこの場で引き続きやっていくしかないと思います。もし、ほかのやり方や事例をお聞かせ願えたら、多分、全国的にも役に立つ会になるのではないかと思います。

もう一点は、話が変わりますけれども、住機能があまり計画の中で触れられていないと思いました。多様な機能というふうには書かれているのですが、住まいとか、住まいを支える機能とか、あるいは、新しい住まい方、2地域居住といったことにもどこかで触れられないかなと思っていました。

先ほど、ゾーニングというか、より細かいエリアごとに解像度を上げたらどうかというお話もございましたので、そういった中で、このエリアは住機能を強化していいのではないかということも入れていけると思いました。

○村木座長

最後のところは、都市軸との関係みたいな話にもつながると思います。

まだ言いたいことがたくさんあるかもしれませんが、先に進めさせていただいて、事務局からいただいている2点目の44ページの骨格構造の強化に向けた取組の方向性についてご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○東委員

44ページについてです。

今回、大通公園西展開拠点と中島公園駅展開拠点が追加されたと理解しています。ここに記載されているとおり、それぞれに重要な遺産といいますか、資料館や豊平館、中島公園ではMICEの施設の整備もご検討されていると伺っていますので、展開拠点として加わるのはもっともかなと感じております。

個人的には、札幌駅交流拠点の北側の北海道大学と近接するエリアは、民学なのか、官民学なのか分からないですけれども、それらが連携して新しい産業を育成するような連携拠点を誘導できないかと思っています。

どちらかというと、シーズ近接型といいますか、大学で色々研究しているものを実用化、商品化できるエリアになっていくといいのかなと、この骨格図を見て感じました。

もう一点は、この中で言うと、うけつぎの軸といとなみの軸に拠点的なものがなくて、

色々移動する中で拠点がないのは目的地として発展しづらいのではないかと都市開発事業者としては感じます。例えば、結節点あたりに準拠点といいますか、中継点のようなものが見えてくると、指標になるのかなと感じておりました。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○池ノ上委員

結論的には、先ほどのご意見と一緒に、いとなみの軸とうけつぎの軸に何らかの拠点を設けることを進めていただけたらと思っています。

というのは、私も創成イーストを中心に色々な活動をさせていただいているのですが、学生たちを入れていても、拠点がない、どこに行けばいいか分からないみたいな話で、なかなか定着しないのです。

先ほど、22ページで若者の話もあったと思うのですが、北海道全体もそうですけれども、札幌の状況も危機的だと思っています。先ほど齋藤委員がおっしゃっていましたように、北大以上のレベルの子たちは通常どおりなのかもしれないのですが、それ以下の偏差値の子たちは、これまでは我々の北海学園グループが第2北大のような形で受皿になっていたと思うのですが、今は、東京の私大を含めて色々ところが推薦入試などで取ってってしまうので、学園大でもさらに下の偏差値が多くなっているのが現状です。札幌には私立大学がたくさんあると思うのですが、定員を満たしているところは半分もないのではないかと感じています。それでも、この数年は、いわゆる踊り場と言われる18歳人口があまり減らない時期で、ここで稼いでおかないとこれから大変と言われているのですが、札幌の私大はほとんど定員を満たせない状況になっています。

そして、10年後には、2035年の崖と言われますが、18歳人口が急激に下がっていく時期を迎えます。特に大都市は人口のダム機能と言われていると思うのですが、若い子たちが、まちづくりもそうですし、企業でも行政でも構わないと思いますけれども、そういうところと共有できるように、都心部なので、いわゆるパブリックな交流拠点だけで全て収めなくてもいいと思うのですが、そういう場所をつくっていただけるとありがたいと思っています。

○村木座長

軸と拠点と、それをどうしていくのかといった時間軸も併せてということですね。

ほかにいかがでしょうか。

○高野委員

44ページの図についてです。

一つは、すすきの地区は昔から拠点的な位置付けが何もないわけです。これはなかなか難しい問題があるということは承知しているのですが、ココノススキノなど、昼間の需要や歓楽以外の需要も少しずつ増えてきている中では、世界の札幌といったときに、すすきのを目当てに来られる方は間違いなく多いわけで、そこをノーマークにしておく

いうのはいかがなものかと思います。

駅や大通の交流拠点とは少し性格が異なるかもしれないけれども、間違いなく中島公園に至るすすきの地区は大きな拠点というか目標になっているので、行政計画の中でも、拠点という名前がいいのかどうか分からないですけれども、やはり丸をつけておきたいと。

ここにどういう機能を求めるのか、今後、全国や全世界からここを目当てに来る人たちを位置付けていくような環境を整えることも考えていく必要があるのではないかというのが一つです。

もう一つは、軸で言うと、にぎわいの軸からいとなみの軸までを全て同じような位置付けで書いているのですけれども、都心のことを考えると、にぎわいの軸の太さは他の軸に比べて相当違うものがあると思います。ここを中心に交通量も減ってくるので、例えば、自転車等の交通を導入するとか、歩行者系の交通を優先するとか、ウォークブルな空間をここにつくり出すようなことで、ほかの軸とは違う扱いをしてもいいと思っています。

○村木座長

軸の持つ意味をもう少し考えるということも言われていたと思います。

また、すすきのの位置付けもありましたが、先ほどのゾーニングの21ページからすると、確かに、44ページの骨格と拠点というのはすごく違いがあるような感じがしますね。

ほかにいかがでしょうか。

○小篠委員

先ほどから出ているうけつぎの軸といとなみの軸をどうするかという話です。

交流拠点や展開拠点は、資金もスケールもかなり大きい開発物件が出てくる可能性があるところを選んで拠点化しているわけですが、それが東側に来るかというのと、この先、あまり来ないと思っているのです。ただ、大事な細かい市民レベルの活動は、池ノ上委員もやられていますけれども、既に色々あるわけです。そういうものが張りつきやすくするような軸という捉え方もあっていいと思います。

大きな丸がどんとあって、それに軸がぼんと突き刺さるのではなくて、軸のところに小さな点が寄ってくると言ったらいいでしょうか、そういうことを誘導するような軸なのだぞと位置付けてみて、東側のところの誘導策を現状も踏まえた形で目に見えるような設定に変えていくということは大いにあり得ると思います。

西側のほうもそういう話がひょっとしたらあるのかもしれませんが。先ほど、すすきのに丸がないという話もありましたが、すすきのは割と大きなエリアなので、ココノススキノなどが出来上がって行って、昼間の人の流れが変わってきたということですね。夜の繁華街というだけではないということです。その状況は、今後、例えば都心居住も考えていくと、減ることはないだろうと考えられますので、集積が起きるのを誘導するような仕掛けを周辺に持たせる、そのような位置付けの仕方にするといいと思います。

あまりごちゃごちゃとした図をつくるのはよくないかもしれないけれども、これをベースにしながら、私たちなりのエッセンスを入れていくというやり方をしてもいいのではな

いかという感じがします。

○村木座長

この後、アクションプランをつくる際に、それにつながるようなことが記載されているといいのかなと思いました。ほかにいかがでしょうか。

○池田委員

同じく44ページのところについてです。

札幌に住んでいて、循環型があまり生かされていないのが非常に気になります。

質問ですけれども、札幌駅のところと大通公園のところを円状に描くような循環型を考えてみたことがあるのかどうか、教えてください。

私は、循環型で新しい文化が生まれてくるのではないかという印象を持っているものですから、お聞きしたいと思います。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

これまでも、第1次、第2次と都心のまちづくりを進める中で、循環という形での軸の設定はしたことがなくて、主要な骨格軸という形でお示ししながら進めてきたものでございます。

○池田委員

いい出会いがありそうな気もするのです。今、どういうことができるかは分かりませんが、真ん中の大通、創世を中心にして行き来するイメージになっているので、もうちょっと分散型になっていくことによって、ほかの地域にまで広がるのではないかという印象を持っています。

○村木座長

今後の検討の際に考えていきたいと思います。ほかにいかがでしょうか。

○榎本委員

軸の取組の方向をもう少しメリハリをつけて記載してもいいと考えています。

目標1から目標3は、成長を呼び込んでいくところと、文化をつくるところと、先ほど後藤委員からもご指摘がありました生活の質をちゃんと維持していくところがどの軸でどういう役割を担っていくのか、今の取組の方向だとインフラ整備の方向しか書いていないので、もう少しまちづくりや経済政策的なところも書いていったほうがいいと思います。

福岡は、札幌と比べて札幌と比較をしていただきますが、札幌と福岡を置き換えると、僕は福岡のオレンジのひし形の外側のフリンジぐらいのところに住んでいるのですけれども、ここ3年で家賃が1割上がり、公共交通の運賃は3割ぐらい上がって、なじみの店はなくなり、都心はどんどんビルが建て替わって面白いお店がなくなっているの、実感的に、お金はすごく払っているのだけれども、まちとしてはすごくつまらなくなっているのです。

ジェイコブスが面白いと言っていたグリニッジビレッジやブルックリンのようなエリアを選んで住み始めたのですけれども、どんどん観光客がやってきて、なじみの店が1時間

待ちとなるわけです。そうすると、あと5年も住めないかなと思うのです。

必ずしも成長は否定しませんが、その裏側できちんと生活の質を担保していかなないと、文化資本や人的な資本が外に逃げていくだけだと思うので、その予防線を具体的にこの軸の中にしっかり埋め込んでいけると、これからの10年で札幌は面白くなるのではないかと思います。

少し難しいと思いますけれども、そういう視点も踏まえていただけるといいなと思います。

○村木座長

そうすると、出だしのところのゾーニングの中で、位置付けや役割も含めて、しっかりデータを取って分析していく必要性が高いと思いました。ほかにいかがでしょうか。

○三浦委員

初歩的な確認ですけれども、先ほどから話題になっているいとなみの軸のところについてです。

JRと交差するところは、新幹線の駅のところという理解でいいですか、それとも、ちょっとずれていますか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

少し東にずれています。

○三浦委員

そうすると、ちょっとピントがずれてしまうかもしれないですけれども、新幹線の駅に近いところに軸をつくるということになると、果たして49ページは新幹線がやってくることを意識した表現になっているのかという素朴な疑問があります。

榎本委員がおっしゃったように、インフラ的な話しかなくて、そもそもこの軸の性格は何なのか、商業も人が住むことも営みなので、何が何なのかだんだん分からなくなってきてしまいました。新幹線がやってくるのは相当なインパクトである中で、ここがぼけたままなのはもったいないような気がしました。

一方で、新幹線がやってくるタイミングとこのまちづくり計画の期間が合っているのかどうか、前回の9月の会議以降で延伸時期の延期に関する動きが出てきたと思うので、その影響を私自身もまだ咀嚼できていないのです。ただ、新幹線駅の視点は変わらないとすると、ここの軸のコンセプト自体をもうちょっと考えてもいいのかなと思いました。

○村木座長

今のところについて、事務局、いかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

先ほどの新幹線駅が予定されている位置といとなみの軸との関係性のお話が一目で分かるのが34ページのスライドです。

左側の図で黄色く塗られているところが新幹線の駅が予定されているエリアでございまして、先ほど申しましたとおり、いとなみの軸が少し東側にずれております。

ただ、そうは言いましても、つながりの軸である創成川通もそうですし、そこからさらに東側へ展開していくという意味でも、いとなみの軸も新幹線の駅のインパクトをしっかりと受け止めなければいけないと考えておりますし、記載に関してもまだまだ足りないところたくさんあると思っておりますので、アドバイスを頂戴して参考にしていきたいと思えます。

時間軸のお話についてですけれども、今、報道でも、新幹線は2038年ぐらいに開通と言われておりますが、今回の計画はおおむね20年間を見据えてということでございますので、射程には入っていると考えて計画の記載内容等も考えているところです。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○愛甲委員

先ほどから皆さんの話を伺っていて、私の理解不足なのかもしれないのですが、これを見ていくと、まず地域やゾーンという言葉が出てきて、軸のところには地区という言葉が出てきて、まちづくりゾーンも出てきまして、エリアや拠点という言葉も後ろのほうで出てきますが、これはどう使い分けているのでしょうか。地区と地域が何を指しているのか、読んでいくと混乱していくというか、よく分からなくなってくところがあります。

特に、まちづくりゾーンと先ほどから議論されている軸の関係はどうなっているのか、私はよく理解できていないです。空間的に何が何を指していて、まちづくりゾーンで言っている話と軸の骨格構造のところと言っている話をどう使い分けていて、それぞれの場所で何をやろうとしているのか、軸のところにも色々な取組の方向性が書いてありますけれども、関係性が理解できなくなってしまいまして、果たして市民の方に理解していただけるのだろうかと思ってしまうました。それについて伺いたいです。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

まず、言葉の使い分けに関しましては、実は、事務局の中でもまだまだ精査できていないところです。一番広いものを何と呼び、それから徐々に小さいものにいくのが分かりやすい考え方かと思えますけれども、そのときの言葉の使い分けはもう少し精査していければと考えております。

次に、ゾーンの設定の仕方、また、それに対して軸や拠点を設定している中で、まちづくりの中心として最も考えていきたいと思っているのが骨格軸と拠点です。ただ、それだけでは拾い切れない部分といいますか、何と呼んだらいいのか悩ましくなってきますけれども、拾い切れない地区、地域が出てきてしまいますので、そのあたりをゾーンという形で示しながら、現況からこういった形で設定した上で、先ほども各委員からお話が出ていましたように、それぞれの地域特性を生かしながら、ストーリーという形でそれぞれのゾーンに対してまちづくりの目指すべき方向などを示せていくと分かりやすくなっていくのかなと考えていました。

このページの中でも、ゾーンと地域別と分かれていますし、さらには、エネルギーでの

エリア設定につきましても、先ほど内川委員から、色々なエリアが出てきてだんだん分かっていくようになってきたというお話もございましたので、そのあたりをどういう形で分かりやすく示すべきか、検討してまいりたいと考えております。

○愛甲委員

ということは、一番重要なのは軸と拠点ですね。それが伝わらないという感じがします。

○村木座長

都市計画をやっていると、普通、都市構造図が1枚あって、そこに色々な色が塗られているのですが、レイヤーが複雑過ぎて、私が見ても分かりにくいということからすると、もう少しシンプルで分かりやすいものを多くの方々からご指摘いただいたことを参考に考えていかなければいけないと思いました。ほかにいかがでしょうか。

○片山委員

にぎわいの軸の終点が中島公園駅前の繁華街になっています。私は中島公園エリアで育ったのですが、最近、この軸の意味合いが変わってきたと思うのです。中島公園の都市に接した緑豊かな歴史のある公園を目がけて来て、その周辺で過ごしたいという外国人がたくさんいて、うちのマンションでも気がいたら中国語が飛び交っていて、駐車場にもレンタカーがいっぱい並んでいます。

明らかにこの通りを歩く人の目的地が周辺の飲み屋ではなくてその先の公園で、公園の周辺に人が集まるようになってきているので、そうなった以上は、長い軸の持つ意味が変わってくると思うのです。

そこで、四角でカバーする範囲に中島公園も含めるといいのではないのでしょうか。また、東側の境界にある豊平川の河川敷も、例えば、中島公園の緑を堪能して河川敷を歩きながらつながりの軸につながったり、いとなみの軸につながっていったりという境界がもうちょっとはっきりすると、人の流れや拠点の広がり of the 想像が付きやすいのではないかと考えます。

○村木座長

現況と計画との間の違いみたいなものも出てきて、今後どうするのかといった重要なご指摘だと思います。

時間の関係もございますので、先に進めさせていただいて、またお気づきのことをご指摘いただければと思います。

もう一つの論点の取組の進め方について、54ページから後ろについてご意見があったらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○榎本委員

都心まちづくり推進委員会を設置するということが55ページに書かれていて、札幌市がつくられる行政計画を動かしていくという意味では、色々なステークホルダーに入っていて意見を交わすということはいいいと思います。

これを読んでいくと、「多様な主体が参画し」とか、56ページでは「民間主体による課題解決やテーマに応じた取組に対しても、支援・連携を図ります」と書いてあって、も

う少し有機的に、発展的に広がっていくし、札幌市が主体的な活動をするところから、もう少し色々なステークホルダーの方と共創したり協働したりしていきたいという趣旨が込められていると思います。

最初は、こういう形で推進委員会から動かしていくと思うのですが、新しいプロジェクトを俎上に上げていくプロセスとか、もし札幌市に既存のプロセスとしてあるのであればその仕組みを記載するとか、色々な主体が参画していくような工夫や仕掛けもちゃんと考えて計画に載せておけるといいのではないかと思います。感想です。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○池ノ上委員

先ほどのお話と同じだと思うのですが、私も最初に申し上げた地域ストーリーを語る主体として推進委員会をつくらなければいけないと思っています。ですから、どうやって魂入れをするかという手法というか、プロセスがとても重要ではないかと思っています。

FDCはそのプロセスがすごくいいのです。物語と言うと怒られるかもしれないですけども、そこに共感して、ああ、だからできるのだという納得につながっていると思うのです。

そう考えると、私の知り合いが3月に、秘密結社を科学するではないですけども、どうやって物語の語り部をつくって世の中に社会変革を起こしていくか、その主体となる推進会議みたいなものをどう立ち上げればいいのかという本を出版するのですが、その部分はプロセスを大切にしながらしっかりと進めていただけたらありがたいと思いました。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○内川委員

今、第2次のまちづくり計画の中でプラットフォームの話が出ていたと思いますけれども、それが今は公共的空間活用会議というものに変わっていています。

動かし方は、最初は札幌市がメインで動いていたかもしれないですけども、徐々に事務局をやっている民間の方が動いてくださって、さらにその方々が一般社団法人まで立ち上げているということです。最初のスタートのタイミングで都心まちづくり推進委員会という母体を行政側でしっかり持つということもあるのかもしれないですけども、アクションプログラムの見直しのタイミングで、民間に移行していくというやり方もあっていいと思います。

そうすると、かちっとしていたほうがいい場面もあるかもしれませんが、今お話に出ていたストーリーと座組を随時見直していくことで、柔らかなストーリーもつくっていけると思いました。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○愛甲委員

取組の進め方の6. 1でこれまでの計画における取組の進め方が書いてあるのですけれども、今回改定する計画で見ていったときに、ここで一旦前の話に戻る感じがしてしまうのです。第2章で現状と課題の話をしていて、前回の資料を見ると、第2章の話をしていきますけれども、ここで現行計画の振り返りをしています。第6章に入ってこれからの話をするのかと思ったら、また元の話に戻ってしまうのです。進捗管理ができていない話や、エネルギーマスタープランとまちづくり計画は別々だったという話は第2章で既にやっていますよね。ここであえてもう一回これをやる必要があるのかなと思いました。

読んでいくほうは、第5章で重点的な取組の話があって、それをどう進めるのかという順番で第6章を読んでいくので、これはここに来なくても、第2章にちゃんと入れておいて、6. 2のところをきちんと書くほうがいいのではないかと思います。

また、先ほど私が言ったエリアと地域と軸の関係がよく分からなかった原因が自分でよく分かったのですけれども、今日の説明が第3章の話をして第4章の1の話をしていますね。そして、第3章の2の話をして、第4章の2の話をしていますね。それが一つの資料になっているので、よく分からなかったのです。

第3章の中で理念と目標の話があって、都心の基本構造の話があってから取組の方向に入っているのではないですか。それで4. 1と4. 2がありますよね。その順番になっていたら分かるのです。

逆に言えば、4. 1と4. 2の取組の方向性が、目標に向けた取組と骨格構造の強化に向けた取組がどういう関係になっているかというほうが逆によく分からなかったので、構造と目標に合っているかどうかこれから整理されたらいいなと思いました。

もう一つは、第6章に関してです。

今回、第4章のところに關する部分で取組の例がいっぱい出てくるのですけれども、エネルギーマスタープランも統合するということで、都心まちづくり計画で言っていることとエネルギーの取組の両方を合わせてこれまでになかった成果が出るような取組もありますし、逆にトレードオフというか対立するような内容のものもあると思うのです。

これはアクションプランの中で整理するのもかもしれないですけれども、それぞれの目標や骨格に合わせて今は取組がいっぱい出てくるのですが、関係性や、先ほどエリア別の整理をされたほうがいいという内川委員の話もありましたけれども、出てきた取組のそれぞれがどういう関係になっているかを整理して、逆に組み合わせたことによって成果が上がりそうなものとか、そういう見方をしてみてもいいと思いました。

特に、私が関係している緑の関係やエネルギーの関係とは結構親和性が高くて、最近、GXや生物多様性の関係でも、シナジーと言いまして、施策を組み合わせることによって相乗効果が上がることを期待するようなことも書かれたりするので、そういう観点があってもいいかなと思います。

○村木座長

エネルギーのアクションプランをつくったときに、縦軸と横軸、何と何が関係しているかも踏まえて、もっと複雑になると思うのですけれども、検討していく必要があると思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○小篠委員

先ほども議論があったかもしれませんが、計画の推進役がどうなっていくかという話はすごく大事です。

第2次のときも、展開プログラムというところで、図表で見ると大きな幹のまちづくり計画にへばりついてくるようなやり方でやってきていたわけですが、もうちょっと機動的に、第3次のまちづくり計画は、主導的に開発を行っていく民間あるいは周辺の取組団体が自ら立ち上げてきた計画をのみ込んであげられるような隙間というかポーラスな状態になっていて、だからといって全部オーケーというわけではないけれども、まちづくり推進委員会と議論しながら動かしていこう、調整をしていこうという計画自体のシステムが入っていてもいいと思います。

そうしたときに、先ほどからおっしゃっているようなエネルギーの話をどういう形で補助してあげるか、インセンティブをどうやって与えてあげるかという話が出てきていいのではないかと考えているのです。

どういうことかという、この先、札幌では、そんなに爆発的な床を必要としない状況になっていくのですが、そのための計画のパラダイムが今はないわけです。今の計算式でやったらどうしても床が必要になってくるような計算式でしかないのだけれども、それではニーズが追いついてこないのも、もう少し容積率を落とした開発にしていかなければいけません。では、それで開発側がうんと言うかという、そこをうまくつくっていく必要があり、違う価値を埋め込んでいく形にしていかなければいけないということです。

立ち上がった再開発物件の運営をまちづくり推進委員会がある程度お手伝いしますよという形で、ただつくったけれども、その後に入居者があまり入ってこないなどの一番やりにくいところをどうコントロールするかを誰かがやってあげるということですね。これを書けるかどうかは分からないけれども、想定しながら民間主導型の計画をうまく取り込んでいくような仕掛けや、その人たちに運営をちゃんとやってもらうということがあのような計画構造になっていると、これからを見据えているのだなということがよく分かると思うのです。

今、私がしゃべっていることが正しいかどうかは分からないけれども、そういうことを想定した上で議論して、こういうメカニズムにしておいたらいいのではないかという話をどこかでやったほうがいいと思います。

○村木座長

推進委員会の役割をもう少し議論する必要があるということですね。正直、大変だと思います。ほかにいかがでしょうか。

○東委員

まず、54ページの下に書かれているまちづくりとエネルギープランを一体的に考えていくというのは当然だと思いますので、都市開発事業者としてもこの考え方には賛成できます。

それから、これからの進め方についてです。

ご指摘のとおり、なかなか難しい立場の組織かもしれないですが、冒頭に書かれておりますまちづくりのマネジメント機能というより、思ったより企業誘致が進まないとか、色々な課題が今後出てくると思いますので、マネジメントというよりは、プロモートなのか、コンサルティングなのか、場合によっては規制緩和的なことにまで踏み込む必要があるかもしれませんが、民民だったり、民学だったり、官学だったりのパートナーシップを強化していったら、実現に向けて前進するかどうかを協議できる組織になることが望まれると思います。

色々な立場の方がそれぞれの見識を持ってお話しされる場は絶対にあったほうがいいと思いますから、こういう組織があること自体は非常にいいと思います。今日のお話を伺っていても、自分が資料を読んで思っていたこと以上のご発言が周りの方から聞いたのは、私にとっても非常にプラスになったので、本当にありがたいと感じました。

○村木座長

ほかにいかがでしょうか。

○高野委員

今のお話に関連しますが、この推進委員会という組織の法律の建てつけなどを色々考えたときに、都心の地域に関連する法律や札幌市の担当課とたくさん関連すると思うのですね。例えば、地区計画の見直しも、地区計画そのものは都計審でやるかもしれないけれども、その前段で色々やるとか、それから、私は交通の専門家なので、そういう話もここでやったりして、皆さん方の色々な議論を展開していくということだと思うのですが、その辺の政策は村木座長がおっしゃったように大変難しいです。

取りあえず、現段階では、どういう部局でやっていることがこの中に関係するのかという関係図をつくっていただいて、その建てつけをどうするかは今後考えていかなければいけないし、本気でやるのなら、5年ごとという話では多分無理で、常置的に何か懸案があれば意見を尋ねるようなものにならないと機能していかないような気がします。

まだまだ議論を積み重ねないと性格づけは分からないと思うのですが、まずはどういう課と関係があるかという関係図をリストアップしたらいいと感じました。

○村木座長

今のご意見について、事務局、いかがでしょうか。

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

関係課のリストアップということでした。

今、都心のまちづくりに関して、後ろのほうにもたくさん関係課の方がいらっしやっ

ていますけれども、そういった方々が中心となりながら、我々がこの会の事務局という形で様々な議論をさせていただきながら、関係課にもフィードバックさせていただき、具体的にところにさらにつなげていくことをイメージしているところです。

まだまだ具体の回し方までイメージし切れていないところもありますので、庁内でもしっかりと議論して詰めていきたいと考えております。

○村木座長

私自身も、専門分野によって言語が違ってすごい苦労するところがあったので、これが広がることは大事なのですが、大変だろうなと認識しました。ほかにいかがでしょうか。

○井上委員

先ほど、時間軸の話が出ていたかと思います。

まちづくりの話では、20年を一つのタームとして見ていच्छやるということだと思うのですが、カーボンニュートラルは2050年が一つのめどであると25年です。

20年の捉え方は人によって色々あるのですが、我々デベロッパーから見ると、20年は結構すぐ来てしまいます。何かを始めようとしても、平気で5年、10年がかかるのです。今から動かそうとしても、もしかするとできるのが10年後ぐらいになるかもしれません。これからやろうとすると、何年か考えたり、地ならししたりすると、10年は意外にすぐにたってしまうものです。単に土地を買ってマンションを建てるのだったらもっと早くできますけれども、まちづくりと連動させて何かやろうということを考えると、結構早くたってしまうのです。

だから、もう動いているものがあるのだったらそこに何を求めるかを考えればいいのだけれども、これから動かそうとすると、20年を見据えながらどうやって実現していこうかということをぜひ考えていただきたいと思います。

そういう意味では、やがてこうなるでしょうと考えているとすぐに20年がたってしまうのです。だから、こうしていきたいですということを言いながら、周りの人たちを巻き込んでいかなければいけないですよという話です。

また、私どもは今、丸の内のまちづくりをやっているのですが、大手町、丸の内、有楽町を一体的にやっているのですが、細長いのですが、一番長い辺は2キロぐらいなのですね。このひし形の中で見ると、例えば、創成川から大通公園の一番西側ぐらいのところが2キロぐらいなのです。それから、先ほど中島公園の話も出ていましたが、多分、札幌駅から中島公園駅までが2キロぐらいかなという感じです。

我々は、その2キロをいかに短く感じさせるか、要するに、歩いていることがあまり苦にならないように感じさせるまちづくりをどういうふうにしようかと考えて色々やっています。それは、ずっと同じものが続くのではなくて、歩いているがだんだん変わっていくけれども、それぞれ面白いよねというものもあるかもしれませんが、そういうことをこの中でどう実現していくのかが一つの軸の考え方にもなっていると思います。軸によって戦術は違っていいと思うのです。そういったことを考えていくと、だんだんつながりが出て

くると思います。

そのときに、我々も最初は、どういうふうにまちをここで活性化していこうかと、エリアの中のことだけを考えていたのです。そのうち、色々な委員会で先生方に今度はこうしようと思っているのですと言うと、自分の中だけを見るのではない、隣にどういうものがある、どういうふうにそことのシナジーや役割分担が考えられるかを考えなさいと言われたのです。

要するに、端っこでやればやるほど、すぐ隣は違うところなのですけれども、違うところにそのままそれを押し出していくのではなくて、隣は違うものだという前提で、違うものがどうやって結びつき合うか、連携し合うかを考えなさいということをよく言われます。

先ほどの中島公園の話も、ある意味、ひし形の端っこが変わりつつあるかもしれない中で、その周りとういうふうに関連していくのかは、今考えることではないかもしれないけれども、一つの課題として、多分、そのうち必要になってきますよということです。その際の部分を考えていくと、そこで断絶があるのではなくて、なだらかにうまく変わっていった、川を越えるとちょっと変わってくるみたいなことになるのかなと思います。

先ほど、ブルックリンという言葉も出ていましたけれども、創成川を挟んでマンハッタンとブルックリンみたいになると面白いなという気もするのです。

エネルギーの話は時間がかかる話ですけれども、どこかで重点的にやってみようよという話が本来ならば起きるべきなのかなと感じます。そもそもエネルギーは高密度のところのほうが効率的にもなりますから、そういったところで導入していくのがいいですけれども、えてして、そういうところの更新の機会は限られます。そういった中で、重点的にやってみようというところを別に選ぶのもいいのかもしれないと思いました。

○村木座長

アクションプランの中でショーケースをどこで考えるかみたいなことなのかもしれないですね。

時間が来ましたが、最後に発言したいという方はいらっしゃいませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○村木座長

ないようでしたら、本日の検討会は終了したいと思います。長い時間にわたりまして、ありがとうございました。

進行を事務局にお返しいたします。

4. 閉 会

○事務局（伊関都心まちづくり課長）

村木座長、ありがとうございました。

また、委員の皆様、本日は多くのご意見をいただきましてありがとうございました。

議事録につきましては、皆様に内容のご確認をいただきました上で、後日、ホームペー

ジにて公開させていただきたいと思います。

また、次回の検討会についてですが、令和7年6月頃の開催を予定しております。具体的な日程につきましては、ご案内、ご調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は、以上で閉会させていただきたいと思います。

長時間、誠にありがとうございました。

以 上